

活動レポート

リージョナルステート研究会

平成19年度新体制

北海道技術士センターが、(社)日本技術士会北海道支部に統合され、新たな枠組みでのスタートとなり、リージョナルステート研究会(RS研)も新しい体制で運営されていくようになりました。新体制のメンバーを紹介いたします。

- 代表 北越 正生 (建設、総合技術)
- 副代表 永瀬 次郎 (衛生工学、総合技術)
- 副代表 対馬 一男 (建設、総合技術)
- 幹事長 成田 登 (衛生工学、総合技術)
- 幹事 赤松 周平 (応用理学、総合技術)
- 幹事 宮武 清志 (建設、総合技術)
- 幹事 日浅 陽富 (建設、総合技術)
- 幹事 阪 豊彦 (建設、総合技術)
- 幹事 須藤 靖彦 (建設、総合技術)
- 幹事 荒 精一 (建設、総合技術)
- 事務局長 大谷 高志 (建設)

この研究会は、バブル経済の崩壊等で北海道が社会的にも経済的にも疲弊しはじめていた頃に、自律と活性化を進めるために技術士として何か貢献できるものはないのか、という問題意識のなかからスタートいたしました。発足当初から分科会を中心とした活動を展開しており、発足に係わった会員の方々は、複数の分科会に所属して活動を盛り上げ、研究会の活動の下支えをされてきたと伺っております。今一度、発足の精神を理解し、前会長を始めとした先輩達の功績を学び、これからの活動に活かしていきたいと考えております。

(文責：研究会代表 北越正生)

自然科学教育分科会

活動報告 (1月～3月)

1. キタヒロ昆虫隊 橋の模型作り (1月13日)

鈴木正良さんのデビュー戦。小学1～6年生7名の子ども達を相手に、奮闘されました。黙々と模型

を作る子、おしゃべりに夢中な子、様々でしたが、時間一杯で何とか作り上げ、皆大喜びでした。

2. 清田区シニアスクール 4回目 (1月31日)

成田登さんによる、「波を使ってもものを見る」の授業でした。19名のシニアの方を相手に、ものが見える仕組み、波の種類、波の伝わり方など、日常生活にフィットした楽しい授業でした。

3. 清田区シニアスクール 5回目 (2月14日)

板谷利久さんによる「水の科学(支笏湖を通して)」の授業が行われました。板谷さんが一人で対応され、面白い話で大いに盛り上がったとのこと。なお、当分科会で実施した5回の授業はアンケートの結果、概ね好評が得られております。

4. キタヒロ昆虫隊 空中散歩 (2月17日)

佐藤芳伸さんによる空中写真実体視の実習。北広島市の空中写真を教材に、小学1～6年生9名を対象として実施しました。思いのほか、子ども達が空中写真になじんでいる様子に驚かされました。また、ポラロイド写真で、自分の姿が立体的に見える様子に皆大喜びでした。(文責：分科会幹事 赤松周平)

観光分科会

観光分科会では、今回、少し視点を変え最近、自由な発想力を引き出す能力開発ツールとして注目されている「マインド・マップ」入門講座を開催しました。



- ◆テーマ 「創造力・発想力を高めるマインド・マップ入門講座」
- ◆講師 倉増充啓 氏 (北の企画室代表取締役)
- ◆日時 平成19年3月6日(火)18:00～20:00(終了後、情報交換会を開催)
- ◆場所 男女共同参画センター 大研修室C (札幌)

(参考サイト <http://mindmap.jp/>)

マインドマップを利用した実験

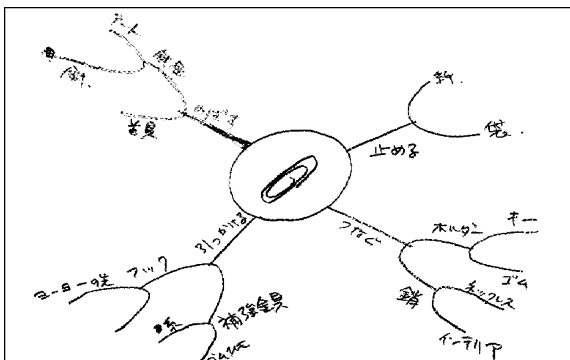
【課題】クリップの使い方を箇条書きせよ。(3分)

【結果】皆さん①紙をとめる、②伸ばして、針金として使う…など3～5つ程度に列挙が精一杯でした。

しかし、マインドマップを使うと、イメージや発想が広がり、10個程度の利用法が浮かんできました。

利用法としては、企画・開発案の発想整理、ワークショップなどでの構想案作り、教育現場での応用など様々な実績があるようです。

【参加者の練習事例】



(文責：分科会幹事 日浅陽富)

循環技術システム研究分科会

○4月：本年度の活動テーマのひとつは、講演会・セミナーで各部門の視点から考察して「北海道の未来年表を考える」こととしました。

○5月：水産部門の視点から、外部講師、金子技術士に「海洋生態系の保全（水産資源の持続的活用に向けて）」と題して講演していただきました。

海洋生態系には未知な部分が多く、自然に対する人間の無力さをあらためて知り、自然生態系の保全の重要性を感じる事ができました。

そして『2100年北海道は熱帯雨林化し、海岸にマングローブが植林され熱帯のカニや魚を漁獲する』と言った未来年表が発表され、半分は「そんな馬鹿な」、半分は「まさしくそんな未来になるのでは」と深く考えさせられました。

一緒に北海道の未来を予測してみませんか。

(文責：分科会幹事 阪 豊彦)



地域主権分科会

地域主権の理念を検討するAグループと具体の事例を基にこれからの社会資本整備を研究するBグループによる勉強会は、平成18年12月以降に3回開催しました。

二つのグループの議論が乖離しないこと、参加者の発言したいという欲求を満足させること、より幅広い知識を得ること等を目的として、各委員が持ち回りで毎回1名が勉強会冒頭で、地域主権に関する話題提供を第12回分科会から行うこととしました。

トップバッターの小松委員のお話は、物流の効率化によるコスト低減、首都圏のCO₂排出量抑制等の効果が期待できる「雪氷輸送物流システム」についてでした。第13回分科会では武智委員より「人口減少時代の影響・分析・対策」と題して、幅広い観点から地域再生の経営戦略事例等を紹介した話がありました。このミニ講演会では、活発な質疑応答・意見交換がなされ、A、Bグループによる討議の時間が十分に確保できず、メール交換にてこれを補うというほど盛り上がった活動を展開しています。

今後は、来年の第7回技術フォーラムで中間報告を行うことを目標にしていきたいと考えています。なお、本年も外部講師をお招きし、特別講演会を実施する予定です。EPOにて開催のご案内をいたしますので多くの皆様が参加されますことをお願いいたします。(文責：分科会幹事 荒 精一)

